

## A. 研究目的

WHO (World Health Organization, 世界保健機構) は、QOL (Quality of Life) の概念を「一個人が生活する文化や価値観のなかで、生きることの目標や期待、基準、関心に関連した自分自身の人生の状況に対する認識」と定義し、国際的に標準化された成人用質問紙 WHOQOL を開発している。しかし、成人用 WHOQOL と同様に国際的に標準化された SF-36 と EuroQOL のいずれも子ども版はなく、子どもの QOL に関する研究の基礎的研究も極めて少ない。また、国内外において小児がん患児、喘息児、てんかん児などを対象とした QOL 質問紙はあるものの、これらは一つの疾患の影響や症状の改善を測定するための指標であった。

昭和大学医学部小児科学教室は、隣接する公立小学校に「健康相談室」を設け、小学校の先生方や PTA の方々と連携しながら小学校における心と体の新しい健康管理を目指してきた。そのような状況のもと、医療関係者による身体的側面に関する評価のみではなく、学校適応を含めた日常生活全般の心身両面からの健康度や適応度を客観的に測定できる指標が必要であると考えた。

そこで、医療関係者から見た病気に関する評価ではなく、簡便に使いやすく、子ども自身の報告による学校適応を含めた日常生活全般の健康度や適応度を測定できるものとして、the Kid-KINDL<sup>R</sup> (Questionnaire for Measuring Health - Related Quality of Life in Children, for children between the ages of 8 and 12, Ravens & Bullinger, 2000) を翻訳して、「小学生版 QOL 尺度」の開発を試みてきた。

Kid-KINDL<sup>R</sup> は、成人用質問紙 WHOQOL の

開発メンバーである Bullinger<sup>1)</sup> が Ravens とともにドイツで開発し、それを英語版にしたものである<sup>2)3)4)</sup>。その構成は、図 1 のように、1. Physical health, 2. Emotional well-being, 3. Self-esteem, 4. Family, 5. Friends, 6. School の 6 つの下位領域からなっている。なお、病児にも適用できるように、そのための Disease Module 6 項目が別に用意されている。その他に、Nursery School / Kinder garden に通う子どもを対象にした 4~7 歳用 Kiddy-KINDL と 13~16 歳用の Kiddo-KINDL があり、さらに Kiddy-KINDL の親用、Kid-KINDL と Kiddo-KINDL の親用を開発している。

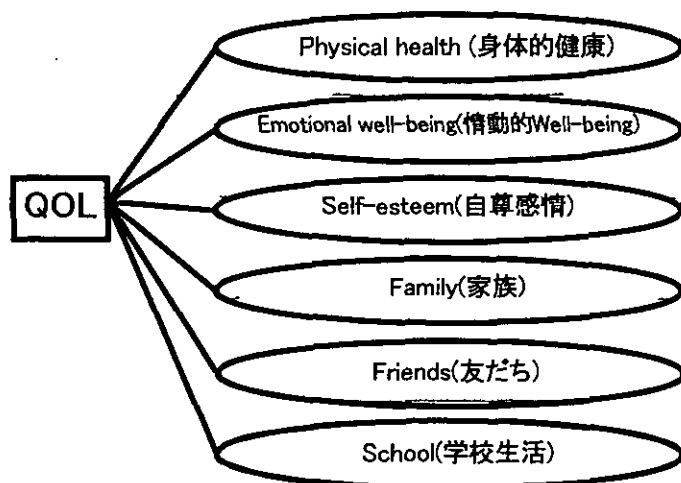


図 1. the Kid-KINDL<sup>R</sup> (Questionnaire for Measuring Health - Related Quality of Life in Children, 2000) の尺度構成

「小学生版 QOL 尺度」も同様に、6 下位領域 (身体的健康, 情動的 Well-being, 自尊感情, 家族, 友だち, 学校生活) に各 4 項目ずつ合計 24 項目について、「この 1 週間の自分の状態にあてはまるかどうか」を 5 段階評定で答えさせる。6 領域の合計得点をもって QOL 得点とし、より高い得点の者がよりよい QOL を示すように配点した。

さらに、それぞれの領域得点を原尺度のように(20)0~100の値に変換した。

注：Sub-scales transformed to 100=

$$\frac{(\text{Sub-scale score}) - (\text{lowest possible score})}{(\text{Possible range of raw score})} \times 100$$

「小学生版 QOL 尺度」の信頼性と妥当性の検討はすでにされている<sup>9)</sup>が、そのときの妥当性の検討は4年と6年においてであり、低学年の児童に関しては議論の残すところとなった。本研究では、そのときにできなかった小学生1, 2年生に対しての妥当性を調べることに、また、標準化にむけて、私立の小学校や、神奈川県を全県規模調査にするために政令指定都市である横浜市、その他の市部、町村部にある小学校に実施して、調査対象校の種類や調査地域の拡大を目的とした。

## B. 研究方法

### 1. 小学1, 2年生の妥当性の検討

#### (1) 調査対象者

都内の公立小学校において、小学1, 2年生(全6クラス)の185名(男児102名, 女児83名)に、個別面接調査を実施した。無回答のあるもの4名を省き181名(男児101名, 女児80名, 有効回答率98%)を分析対象とした。

#### (2) 調査の手続き

平成15年12月3日, 4日, 5日, 8日の4日間、心理学専攻の大学生、大学院生と臨床心理士のべ69名が、健康相談室、会議室、ランチルーム、生活科室において、対象児童を個別に約20~40分かけて面接調査した。予定時間、調査者と児童の割り当ての一覧表を事前にクラス担任教師に渡

しておき、調査者はクラスに予定されている児童を迎えに行き、各部屋でインタビュー形式の個別面接調査を行い、調査が終わるとそれぞれのクラスまで児童を送り届けるという手順で進めた。

#### (3) 調査内容

小学生版 QOL 尺度(柴田ら, 2003)の24項目、子どもうつ尺度(CDI, Kovacs.M., 1985)19項目, 自尊感情尺度(Rosenberg.M., 1965)10項目をたずねた。子どもうつ尺度は、うつ傾向の自己評価尺度を用いて Kovacs(1985)が作成したもので、「①たまに悲しくなる-0, ②よく悲しくなる-1, ③いつも悲しい-2, ④わからない-無回答」, 「①何でもだいたいよく出来る-0, ②うまく出来ないことが多い-1, ③何をやっても出来ない-2, ④わからない-無回答」など19項目を3段階で評定し、得点が取りうる範囲は0~38点となり、得点が高いほどうつ傾向が強いように配点されている<sup>9)</sup>。自尊感情尺度は、Rosenberg(1965)によって作成され、自己についての価値的評価の程度を自己報告するものを用いた。具体的な質問項目としては、「自分にはいくつかよいところがあると思う。」「私はいろいろなことを上手くやれると思う」など10項目について、「そう思う-4, まあそう思う-3, あまりそう思わない-2, そう思わない-1」の4段階評定する。得点がとりうる範囲は10~40点で、得点が高いほど自尊感情が高いように配点されている<sup>7)</sup>。

### 2. 標準化にむけて調査の拡大

#### (1) 調査対象者

平成15年11月から12月にかけて、都内の公立小学校1校488名、私立小学校1校679名に加え、神奈川県の政令指定都市

にある公立小学校 2 校計 1438 名 (935 名、503 名)、市部にある公立小学校 2 校計 1073 名 (646 名、427 名)、町村部にある公立小学校 69 名、全体計 3747 名に質問紙を配布した。集団実施され、都内の公立小学校 1 校 478 名、私立小学校 1 校 677 名、政令指定都市 (横浜市) の公立小学校 2 校 (925 名、494 名)、市部の公立小学校 2 校 (644 名、419 名)、村部の公立小学校 68 名、計 3705 名から回答を得られた。無回答や回答に不備があったもの 323 名を除き、3382 名 (有効回答率 90%) を分析対象とした。分析対象者の内訳は以下ようになる。

表 1. 学校種類別分析対象者

	学校数	男児 (人)	女児 (人)	合計 (人)
都内公立小学校	1 校	257	217	474
都内私立小学校	1 校	311	302	613
政令都市小学校	2 校	652	623	1275
市部の小学校	2 校	473	482	955
村部の小学校	1 校	35	30	65
合計	7 校	1726	1654	3382

### (2) 調査の手続き

平成 15 年 11 月に、平成 13 年度の調査時から協力校として協力していただいている都内の公立小学校と都内の私立小学校 (共学) 1 校に加え、神奈川県を全県規模での調査にしようと、政令指定都市、市部、町村部にある小学校に対して無作為に調査を依頼した。そのなかで、承諾の得られた小学校 5 校に、実施方法や注意事項を記した文章を添えて、学年、クラスごとの人数分の質問紙を郵送した。

### (3) 調査内容

小学生版 QOL 尺度の 24 項目と現在病院で治療中の病気があるかどうか、あると答

えたものにはその病名、また、登校前に朝食をとっているかどうかをたずねた。性別のみで原則無記名とした。

## 3. 「小学生版 QOL 尺度：親用」の信頼性と妥当性の検討

### (1) 調査対象者

平成 13 年度の調査時からの協力校である都内の公立小学校の児童の保護者 484 名に「小学生版 QOL 尺度：親用」を配布し、447 名から回答を得た。回答に不備のある 18 名を除き、429 名を分析対象とした。有効回答率 88%であった。

### (2) 調査の手続きと内容

児童に調査した直後に、「小学生版 QOL 尺度：親用」の質問紙をクラス担任から封筒に入れて配布してもらった。子どもと相談しないで親から見た子どもの QOL の状態を記入するようにとの依頼文を添えた。封筒に入った調査用紙をクラスごとに回収した。

### (3) 調査内容

「小学生版 QOL 尺度：親用」は、小学生版 QOL 尺度と同様に 24 項目からなり、ほぼ同じ内容を親の視点からの子どもの QOL について 5 段階評定で回答を得るものである。

## C. 研究結果

### 1. 小学 1, 2 年生の妥当性の検討

#### (1) 小学 1, 2 年生の QOL 得点並びに 6 つの下位尺度の得点の構成

QOL 得点と各項目間の相関係数を表 2 に示した。QOL の全体得点と各項目との相関は、Pearson の積率相関係数で .19 ~ .50 となり、いずれも有意 ( $p < .05$ ) であっ

たが、友だち【2】の項目に関しては、特に低い相関となっていた。

表2. QOL得点と各項目間の相関係数

	項目番号	全体と項目間の相関係数
身体的健康	【1】	.30**
	【2】	.40**
	【3】	.38**
	【4】	.34**
情動的 Well-being	【1】	.37**
	【2】	.39**
	【3】	.45**
	【4】	.33**
自尊感情	【1】	.45**
	【2】	.42**
	【3】	.39**
	【4】	.41**
家族	【1】	.35**
	【2】	.50**
	【3】	.45**
	【4】	.36**
友だち	【1】	.37**
	【2】	.19*
	【3】	.34**
	【4】	.45**
学校生活	【1】	.43**
	【2】	.39**
	【3】	.41**
	【4】	.29**
QOL 得点		1.00

\*\* =  $p < .01$ , \* =  $p < .05$

表3に、1年生と2年生のQOL得点並びに6下位領域得点の平均値と標準偏差を示す。1年生の各得点平均と2年生の得点平均の間に有意差は、みられなかった。また、表4にみられるように、男児の各得点の平均と女兒の得点の平均の間にも有意な差はみられなかった。以下に示す得点は、すべて原尺度と同様<sup>(4)</sup>に0~100に換算したものである。

(2) QOL得点と子どもうつ尺度、自尊感情尺度との相関

QOL得点並びに6つの下位領域尺度得点と子どもうつ尺度、自尊感情尺度間の相関係数が表5に示されている。子どもうつ尺とQOL得点の間にはPearsonの積率相関で-.66となり、6下位領域得点との間にも-.32~-0.52といずれも中程度以上の負の有意な相関 ( $p < .01$ ) がみられた。

また、自尊感情尺度とQOL得点の間にはPearsonの積率相関で.55となり、6下位領域得点との間にも.24~.41と中程度の正の有意な相関 ( $p < .01$ ) がみられた。子どもうつ尺度や自尊感情尺度と理論的に期待される方向での相関がみられ、これら2つの心理的適応尺度と小学生版QOL尺度の関連性が示された。

表3. 1, 2年生の男女別 QOL 得点ならびに 6 下位領域得点の平均値と標準偏差

	身体的健康	情動的 Well-being	自尊感情	家族	友だち	学校生活	QOL 得点
1 年生 n=100	73.88 (17.05)	75.13 (19.82)	70.13 (20.86)	68.75 (19.82)	72.13 (16.93)	69.00 (20.06)	71.50 (12.16)
2 年生 n=81	74.69 (17.89)	76.08 (19.28)	68.21 (21.75)	68.06 (21.65)	72.84 (15.79)	66.82 (17.81)	71.12 (11.63)

( ) = SD

表4. 1, 2年生の男女別 QOL 得点ならびに 6 下位領域得点の平均値と標準偏差

	身体的健康	情動的 Well-being	自尊感情	家族	友だち	学校生活	QOL 得点
男児 n=101	74.26 (17.93)	77.23 (19.15)	72.90 (19.77)	66.71 (21.09)	71.91 (15.95)	69.55 (18.99)	72.09 (12.13)
女児 n=80	74.22 (16.80)	73.44 (19.93)	64.69 (22.22)	70.63 (19.90)	73.13 (17.00)	66.09 (19.10)	70.36 (11.58)

( ) = SD

表5. QOL 得点並びに 6 下位領域得点と子どもうつ尺度, 自尊感情尺度間の相関係数

	身体的健康	情動的 Well-being	自尊感情	家族	友だち	学校生活	QOL 得点
子どもうつ尺度 との相関係数	-.52**	-.42**	-.32**	-.38**	-.35**	-.48**	-.66**
自尊感情尺度 との相関係数	.35**	.30**	.40**	.24**	.37**	.41**	.55**

\*\* =  $p < .01$

## 2. 標準化にむけて調査の拡大

### (1) 7校全体の QOL 得点の度数分布

平成 15 年 11 月から 12 月に調査した首都圏の小学校 7 校すべての QOL 得点の平均は 67.0 ( $SD=13.67$ ) であった。度数分布は、図 2 に示されるように、ほぼ正規分布していた。

### (2) 7校全体の学年別と性別における QOL 得点並びに 6 下位尺度の得点

7 校全体の学年別 QOL 得点並びに 6 下位尺度の得点を図 3, 図 4 に、性別 QOL 得点並びに 6 下位尺度の得点を図 5 に示した。QOL 得点並びに 6 下位領域の得点における学年 (6) × 性 (2) の 2 要因の分散分析をした。その結果、QOL 得点については、学年間の差のみが有意であった ( $F(5.337) = 35.89, p < .01$ )。学年と性との交互作用は有意ではなかった。学年の主効果が有意であったので、Scheffe による多重比較をおこなったところ、6 年生の QOL 得点の平均は 1, 2, 3, 4, 年生よりも、5 年生のそれは 1, 2, 3, 年生よりも有意 ( $p < .05$ ) に低かった。低学年、中学年、高学年と年齢ごとに低くなる傾向があった。6 下位領域の得点の結果は、いずれも学年と性との交互作用は有意ではなかった。学年の主効果と性の主効果がみられたのは、身体的健康 ( $F(5.337) = 14.59, F(5.337) = 12.67, p < .01$ ) と自尊感情 ( $F(5.337) = 110.11, F(5.337) = 10.693, p < .01$ ) に有意な差が見られた。身体的健康においては 6 年生の平均が 1, 2, 3, 4, 5 年生の平均より低く、3 年生が 1, 5, 6 年生より有意に高かった。また、女兒より男児の方が有意に高かった。自尊感情においては、6 年生の平均は 1, 2, 3, 4, 5 年生の平均より有意に低く、5 年生の平均も 1, 2, 3, 4, 年生の平均より有意に低く、学年ごとに低くなる傾向であった。また、女兒より男児の方が有意に高かった。学年の主効果のみあったのは、情緒的 Well-being ( $F(5.337) = 7.011, p < .01$ ) と家族 ( $F(5.337) = 4.422, p < .01$ )、友だち ( $F(5.337) = 14.014, p < .01$ )、学校生活 ( $F$

( $5.337 = 62.688$ ),  $p < .01$ ) であった。Scheffe による多重比較をおこなったところ、情緒的 Well-being においては、1 年生がどの学年よりも有意に低かった。家族においては、4 年生と 6 年生の間に差が見られ、6 年生の方が有意に低かった。友だちにおいては、2 年生の平均が 3, 4, 5, 6 年生の平均より有意に高かった。1 年生の平均も 5, 6 年生の平均より有意に高かった。学校生活においては、6 年生の平均は 1, 2, 3, 4, 年生の平均より有意に低く、5 年生の平均も 1, 2, 3, 年生の平均より有意に低く、学年ごとに低くなる傾向であった。QOL 得点、身体的健康、自尊感情、家族、友だちのいずれにおいても 6 年生の得点が低かったことになる。

### (3) 朝食の有無と QOL 得点

登校前に朝食をいつも食べているかどうかをたずねてその回答によって、いつも食べる群 (2939 名)、ときどき食べる群 (327 名)、食べない群 (48 名) の 3 群に分けた。この 3 群間に差があるかどうか確かめるために、QOL 得点ならびに 6 下位領域得点について、一要因の分散分析を行なった。その結果、QOL 得点 ( $\bar{F}(2.331) = 78.381, p < .01$ )、ならびに 6 下位領域得点 ( $(F(2.331) = 27.652), (F(2.331) = 30.078), (F(2.331) = 38.861), (F(2.331) = 48.170), (F(2.331) = 28.791), (F(2.331) = 39.434), p < .01$ ) においてすべて 3 群間の差が有意であった。図 6 にみられるように、QOL 得点と下位領域の自尊感情については、いつも食べる群の平均得点はときどき食べる群の平均得点より有意に高く、食べない群の平均得点よりも有意に高く、ときどき食べる群の平均得点も食べない群の平均得点より有意に高かった。身体的健康、情緒的 Well-being、家族、友だち、学校生活においては、いつも食べる群の平均得点はときどき食べる群の平均得点より有意に高く、いつも食べる群の平均得点は食べない群の平均得点より有意に高かった。

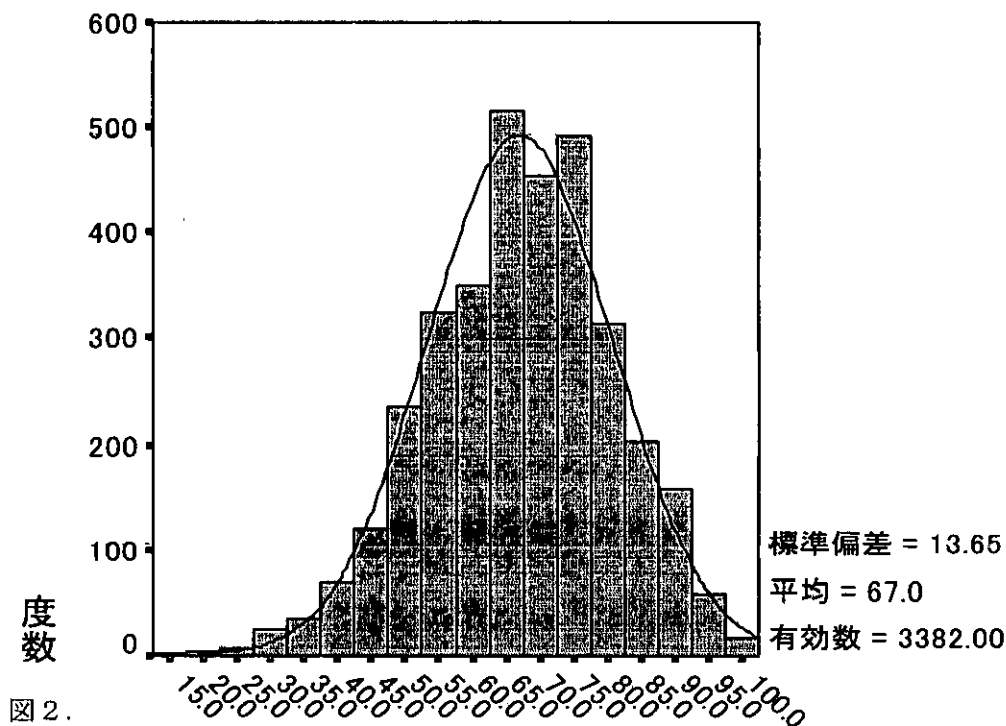
### (5) 学校種類別の QOL 得点並びに 6 下位領域得点

平成 15 年に調査した 7 校を、種類別に分けてそれぞれの得点の構成をみた。

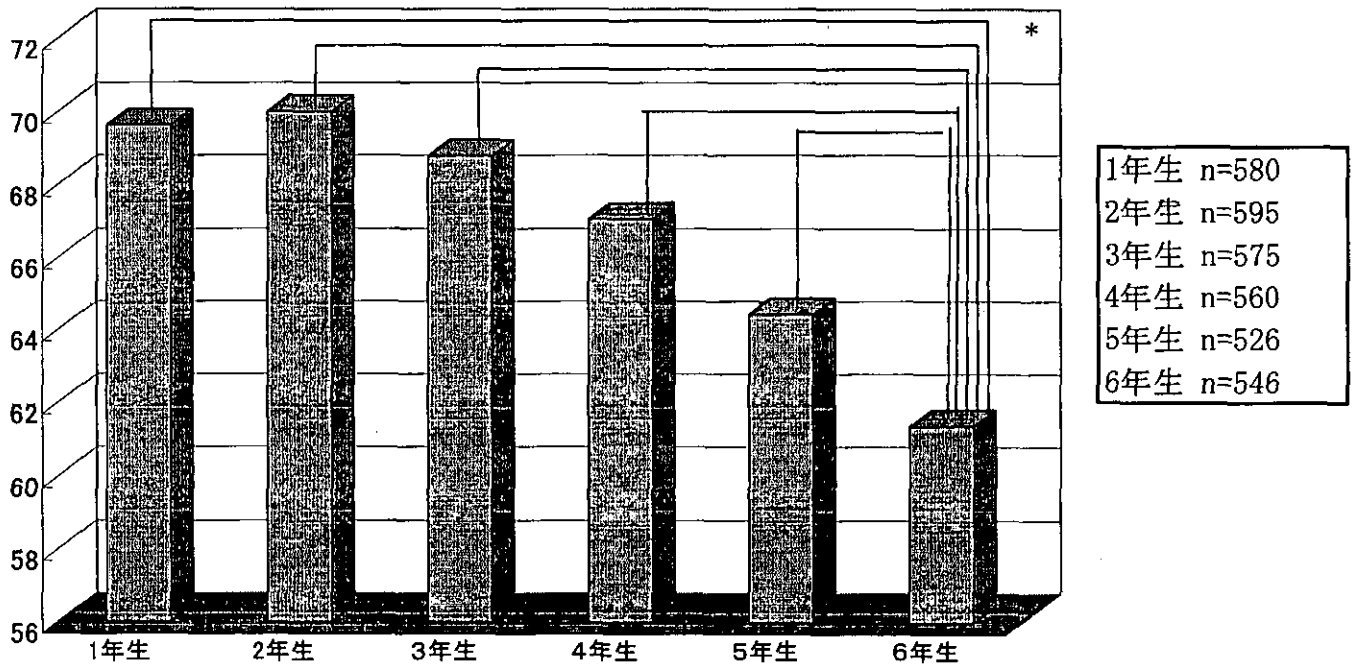
政令指定都市（横浜市）にある公立小学校 2 校の QOL 得点の平均値は 67.7 ( $SD=13.49$ ) で、度数分布図を図 7 に示す。学年と男女別の得点を表 6 に示した。QOL 得点 ( $F(5.1269)=9.492$ )  $p<.01$ ) 並びに 6 下位尺度の身体的健康, 自尊感情, 友だち, 学校 ( $F(5.1269)=9.733$ ),  $F(5.1269)=12.177$ ),  $p<.01$ ) において、学年間に有意な差が見られた。男女の差は、家族においてのみ見られ、女兒の平均が男児の平均より有意に高かった ( $p<.01$ )。

市部にある小学校 2 校の QOL 得点の平均値は 64.6 ( $SD=13.41$ ) で、図 8 に QOL 得点の度数分布図を示す。また、学年と男女別の得点を表 7 に示した。QOL 得点 ( $F(5.1269)=9.492$ )  $p<.01$ ) 並びに 6 下位尺度の身体的健康, 自尊感情, 友だち, 学校 ( $F(5.1269)=9.733$ ),  $F(5.1269)=12.177$ ),  $p<.01$ ) において、学年間に有意な差が見られた。

町村部にある小学校の QOL 得点の平均値は 64.4 ( $SD=12.33$ ) で、図 9 に QOL 得点の度数分布図を示す。また、学年と男女別の得点を表 8 に示した。QOL 得点並びに 6 下位尺度の得点の学年ごとの平均、男女別の平均の間にいずれも有意な差はみられなかった。



2003年調査7校全体のQOL得点の度数分布



\* =  $p < .05$

図3 7校全体の学年別 QOL 得点

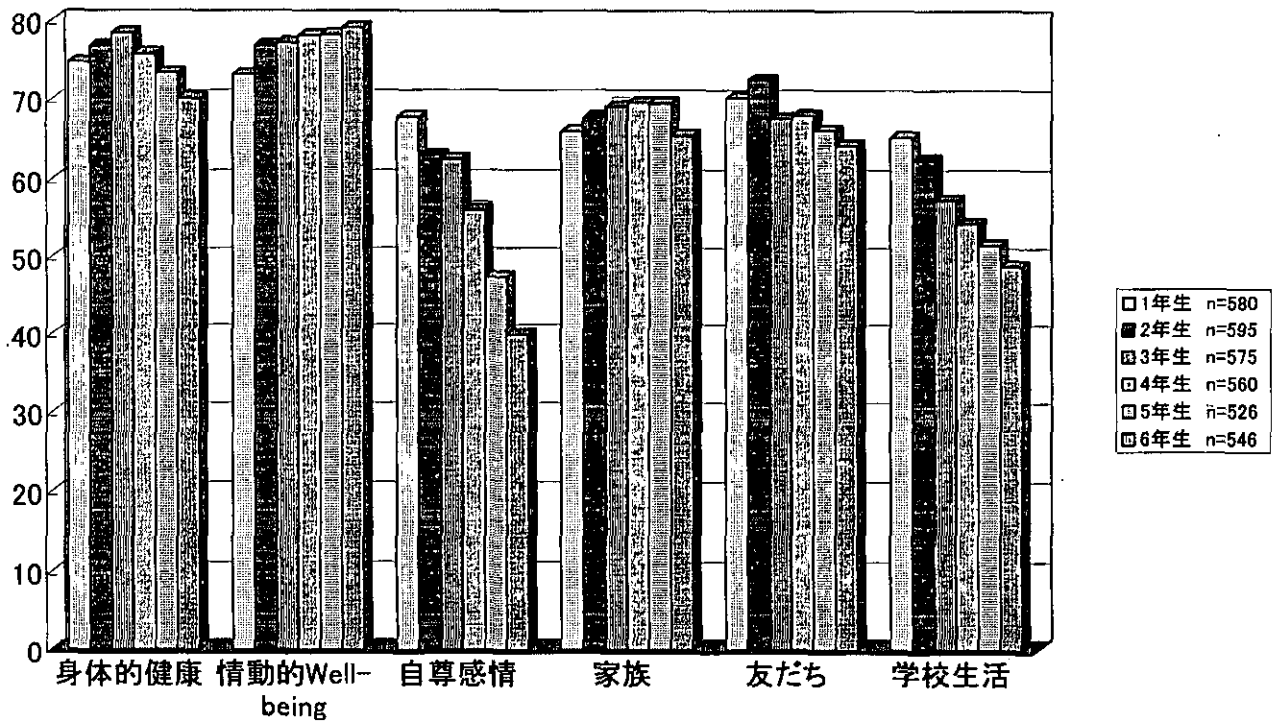


図4 7校全体の学年別6下位領域得点



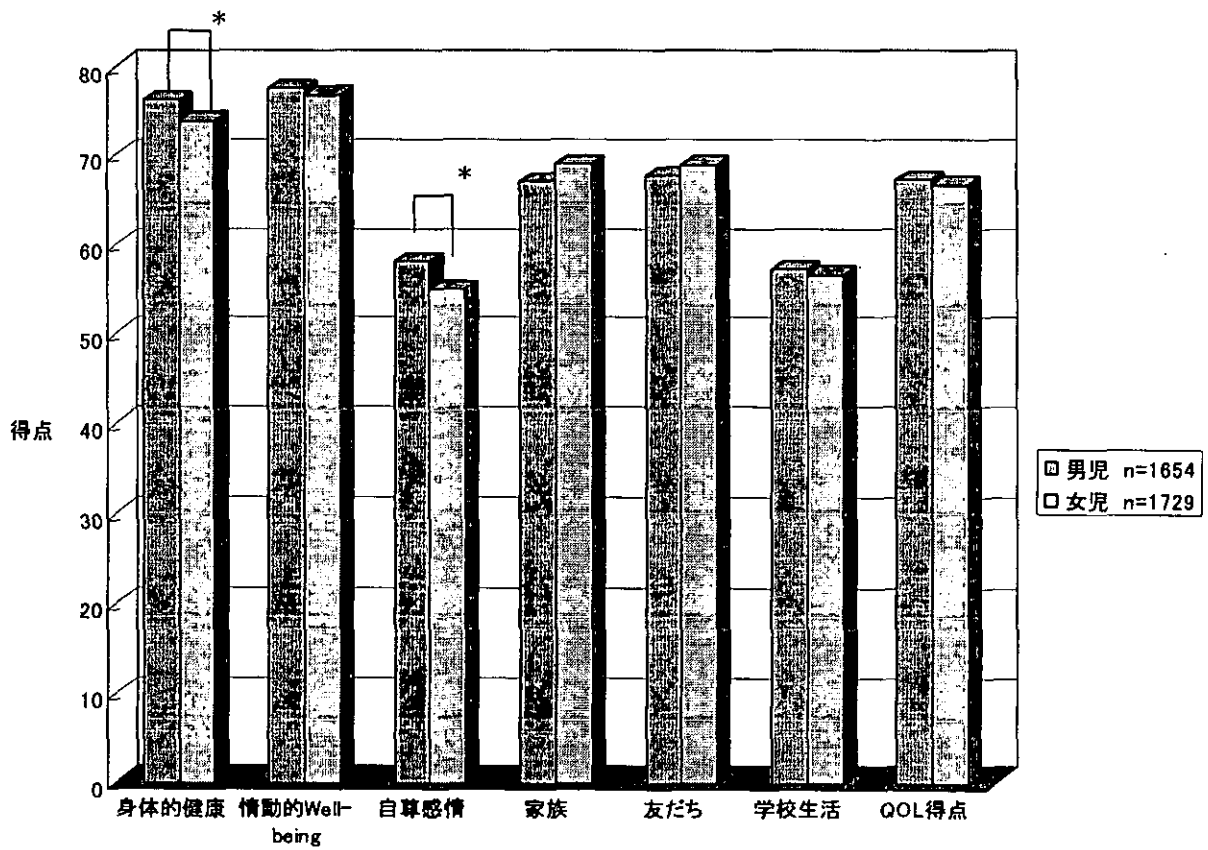


図5 7校全体の男女別QOL得点と6下位領域得点

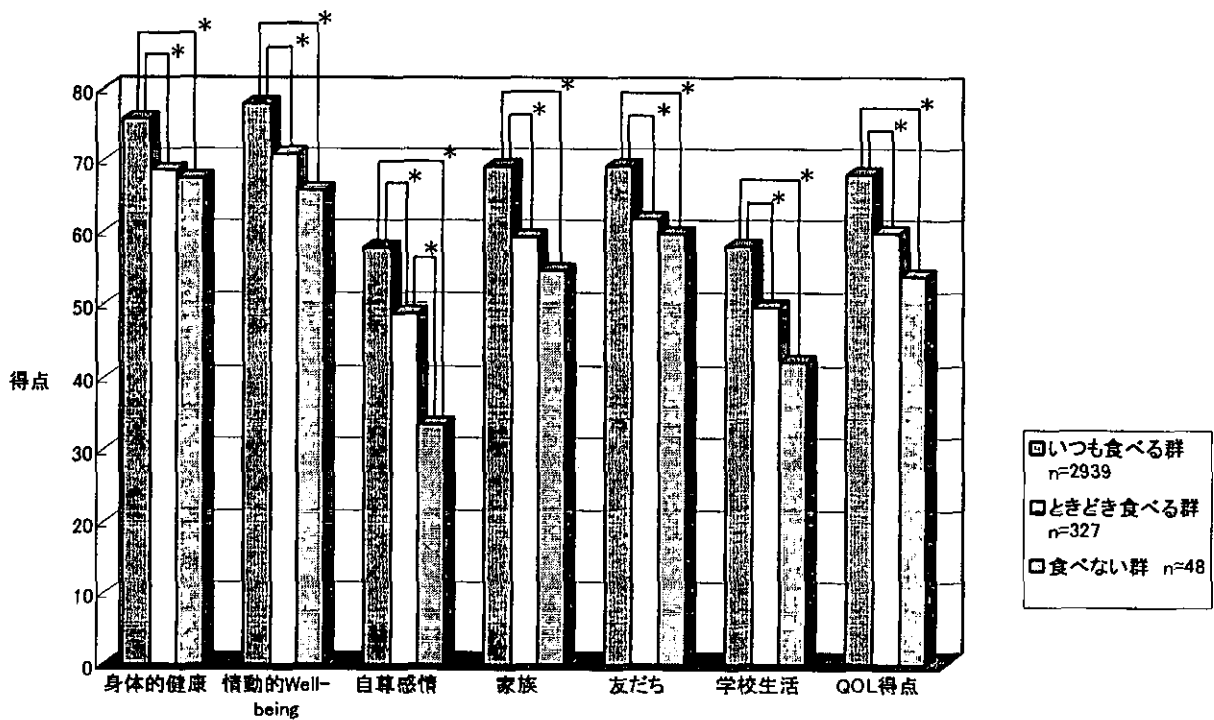


図6 朝食の有無のQOL得点や6下位領域得点

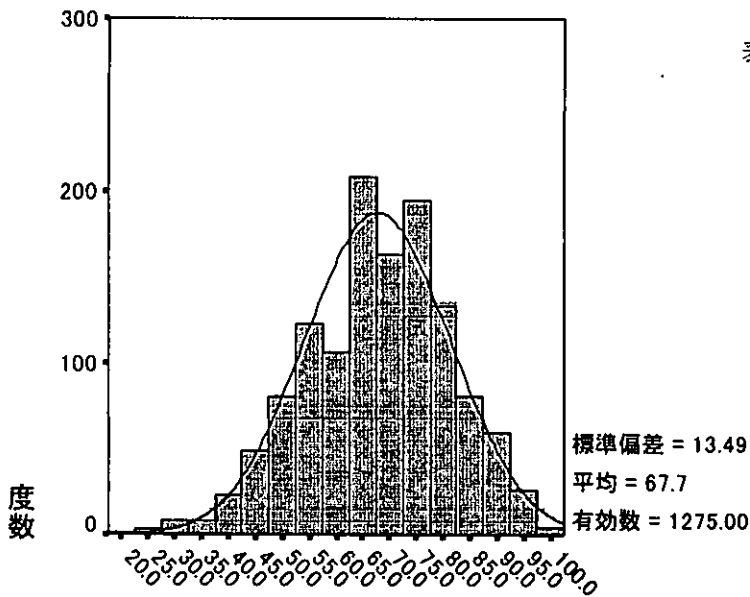


図7 政令都市にある公立小学校のQOL得点度数分布

表6. 政令指定都市にある公立小学校の学年別性別QOL得点

	身体的健康	Well-being	自尊感情	家族	友だち	学校生活	QOL得点
1年	76.19	73.25	66.06	68.56	66.63	64.25	69.16
2年	77.27	76.73	63.78	68.58	73.67	63.64	70.61
3年	78.54	77.99	62.86	69.27	65.90	58.55	68.85
4年	77.23	79.38	57.50	70.51	66.19	56.55	67.89
5年	74.27	77.92	50.15	70.27	65.16	54.44	65.37
6年	70.22	79.19	44.74	66.76	61.65	53.38	62.66
男児	76.86	76.76	59.01	67.11	66.01	58.36	67.35
女児	74.85	78.01	57.17	71.10	67.86	59.15	68.02

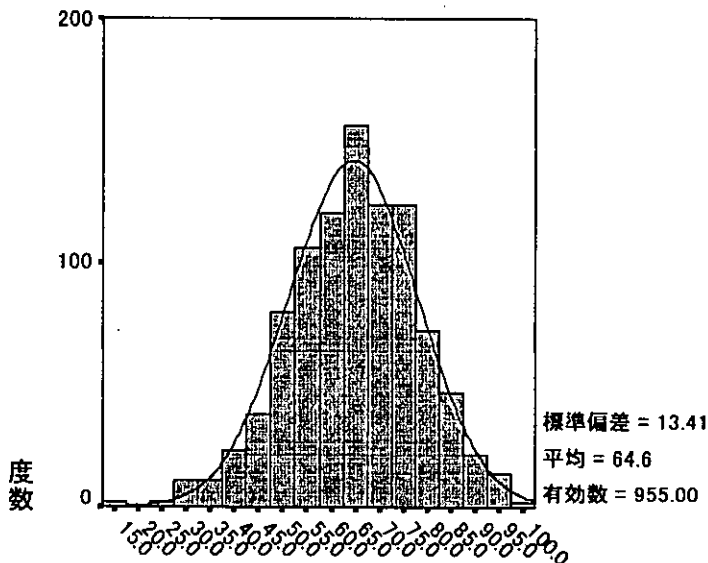


図8 市部にある公立小学校のQOL得点度数分布

表7. 市部にある公立小学校の学年別性別QOL得点

	身体的健康	Well-being	自尊感情	家族	友だち	学校生活	QOL得点
1年	75.00	71.26	67.87	63.49	71.96	63.91	68.91
2年	76.49	74.48	57.69	67.13	67.92	59.44	67.19
3年	77.94	74.22	58.29	68.95	64.30	53.23	66.16
4年	74.07	73.14	50.13	64.06	68.37	50.89	63.44
5年	71.17	75.38	44.71	66.58	64.04	45.88	61.29
6年	71.60	78.09	40.01	67.83	62.81	44.23	60.76
男児	76.27	75.98	55.66	65.59	66.98	53.34	65.64
女児	72.35	72.99	50.51	67.04	66.16	52.44	63.58

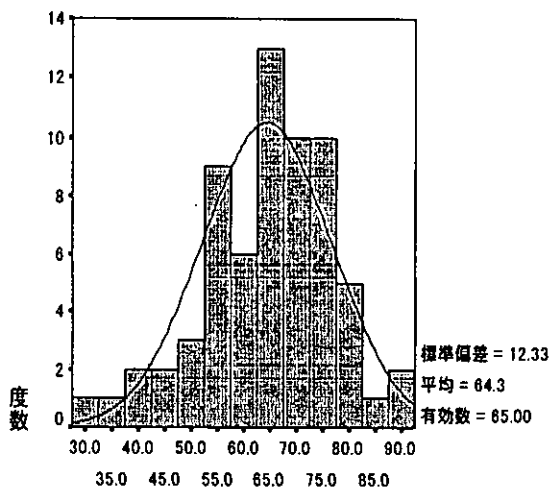


図9 町村部にある公立小学校のQOL得点度数分布

表8. 村部にある公立小学校の学年別性別QOL得点

	身体的健康	Well-being	自尊感情	家族	友だち	学校生活	QOL得点
1年	81.25	91.67	66.67	54.17	75.00	60.42	71.53
2年	80.68	80.68	59.09	56.82	75.00	58.68	67.99
3年	79.69	70.31	64.84	67.97	60.94	53.91	66.28
4年	75.48	76.92	43.27	74.52	62.50	44.71	62.90
5年	81.25	86.81	38.89	55.56	63.19	43.75	61.57
6年	71.18	84.72	38.54	65.97	63.19	43.40	61.17
男児	78.04	80.18	53.75	64.46	63.39	48.21	64.67
女児	75.83	83.33	43.13	63.13	68.75	49.17	63.89

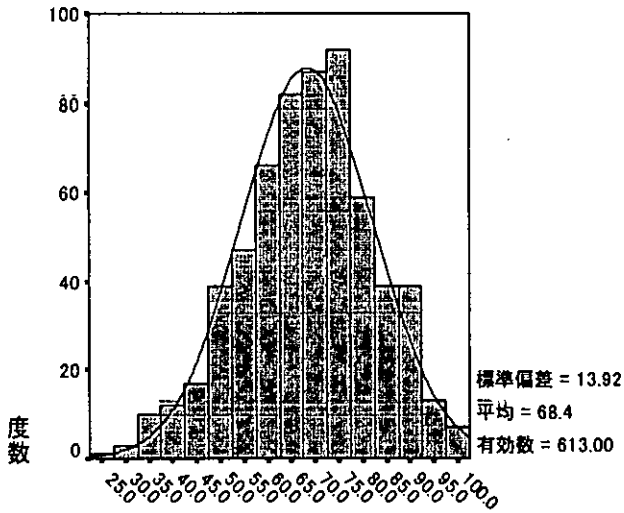


図 10 東京都私立小学校の QOL 得点度数分布

表 9. 東京都私立小学校の学年別性別 QOL 得点

	身体的健康	Well-being	自尊感情	家族	友だち	学校生活	QOL 得点
1 年	72.16	73.84	69.46	63.92	72.55	67.40	69.89
2 年	77.80	81.07	65.89	68.34	75.47	61.80	71.73
3 年	77.36	81.19	63.56	68.57	73.64	58.67	70.50
4 年	77.92	82.13	62.15	72.66	71.38	58.06	70.72
5 年	72.63	81.25	45.91	69.47	71.26	54.31	65.80
6 年	71.50	81.14	37.36	61.53	69.78	48.68	61.67
男児	75.50	80.08	57.52	67.28	70.48	57.90	68.13
女児	74.48	80.26	57.47	67.49	74.32	58.30	68.72

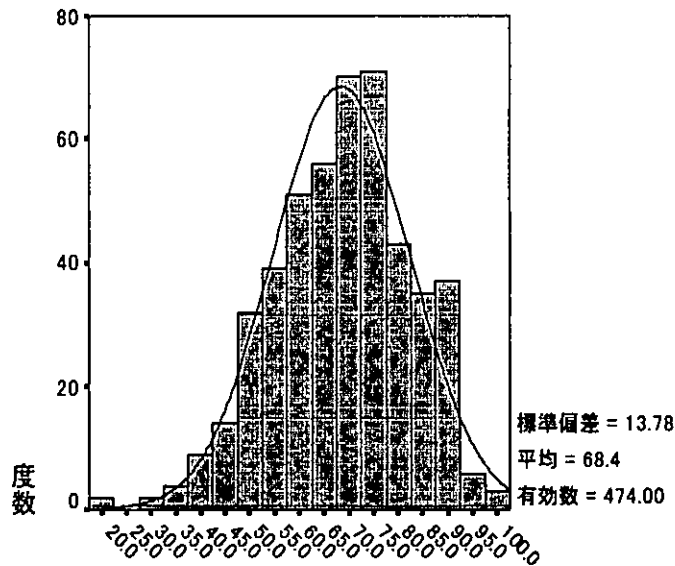
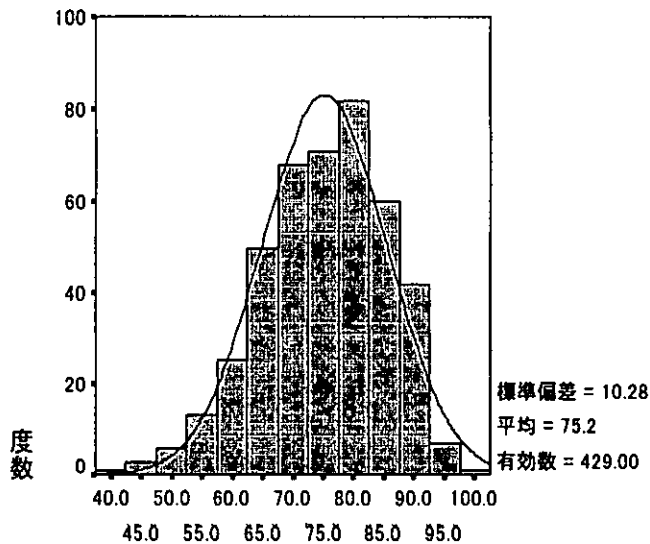


図 11 東京都公立小学校の QOL 得点度数分布

表 10. 東京都公立小学校の学年別性別 QOL 得点

	身体的健康	Well-being	自尊感情	家族	友だち	学校生活	QOL 得点
1 年	73.88	73.88	70.13	68.75	72.13	69.00	71.50
2 年	74.69	75.93	68.21	68.06	72.84	66.82	71.12
3 年	80.47	64.30	68.98	70.16	72.03	60.86	71.52
4 年	73.25	68.29	57.39	72.94	68.90	52.06	67.28
5 年	75.95	69.79	48.39	76.23	68.66	52.84	67.14
6 年	63.37	69.33	32.02	62.98	67.60	52.12	59.23
男児	74.44	78.57	61.19	69.41	70.33	61.87	69.30
女児	73.19	75.84	56.74	70.36	70.85	57.26	67.37



親から見た子どもの QOL 得点度数分布

表 11. 親から見た子どもの学年別 QOL 得点 (東京都公立小学校の保護者)

	身体的健康	Well-being	自尊感情	家族	友だち	学校生活	QOL 得点
1 年	84.67	85.25	67.81	66.86	76.24	77.12	76.32
2 年	84.38	87.22	70.55	69.13	79.73	79.07	78.35
3 年	81.91	83.80	66.20	64.88	77.47	75.25	74.92
4 年	81.98	83.69	65.42	68.02	77.76	72.32	74.86
5 年	83.02	80.73	60.63	64.90	76.56	71.77	72.93
6 年	79.39	82.03	61.91	66.60	74.12	74.32	73.06

図 12 親から見た子どもの QOL 得点度数分布  
(東京都公立小学校の保護者)

3. 「小学生版 QOL 尺度：親用」について

都内の公立小学校では、「小学生版 QOL 尺度：親用」を使用し、保護者に親から見た子どもの QOL についてたずねた。この結果、図 12 に見られるように、QOL 得点の平均値は 75.2 (SD=10.28) で、ほぼ正規分布していた。学年別の得点の差を分散分析によってみると、QOL 得点並びに 6 下位尺度には、下位尺度の自尊感情のみに有意に差があった (F(5.423)=3.367,  $p<.05$ )。表 11 に示されるように、2 年生の平均が 5 年生の平均より有意に高かったが、それ以外には有意差はなかった。

表 10 と表 11 を比較してみると、親からみた子ども QOL 得点は、子どもが記したそれより全体的に高かった。しかし、表 12 にみられるように、子どもの QOL 得点と親から見た子どもの QOL 得点との Pearson の積率相関係数は .32 ( $p<.01$ ) となり、6 下位領域はそれぞれ .16~.32 ( $p<.01$ ) であった。強い相関ではなかったが、ある程度の関連性はみられた。

また、信頼性を検討するために内的整合性を推定する Cronbach の  $\alpha$  係数をみると、表 13 に示されるように、QOL 得点では .87 となり、6 下位領域の得点も .58~.85 と高い値が得られた。

表 12. 子どもの QOL 得点並びに 6 下位領域得点と保護者からみた子どもの QOL 得点ならびに 6 下位領域得点との間の相関係数

	身体的健康	情動的 Well-being	自尊感情	家族	友だち	学校生活	QOL 得点
P 身体的健康	.32**	.16**	.08	.08	.10*	.11*	.20**
P 情動的 Well-being	.23**	.23**	.09	.16**	.21**	.10*	.23**
P 自尊感情	.15**	.09	.18**	.11*	.17**	.14**	.21**
P 家族	.10*	.08	.06	.16**	.06	.01	.17*
P 友だち	.27**	.24**	.09	.11*	.29**	.03	.24**
P 学校生活	.26**	.30**	.13**	.11**	.28**	.27**	.34**
P QOL 得点	.32**	.25**	.15**	.17**	.27**	.16**	.32**

\*\* =  $p<.01$ , \* =  $p<.05$

表 13. 小学生版 QOL 尺度の QOL24 項目間ならびに 6 下位領域 4 項目間の  $\alpha$  係数

	身体的健康	情動的 Well-being	自尊感情	家族	友だち	学校生活	QOL 得点
Cronbach の $\alpha$ 係数 n=429	.63	.69	.85	.58	.75	.72	.87

## D. 考察

### 1. 小学 1, 2 年生の妥当性の検討

小学 1 年生と 2 年生に関しては、平成 13 年度の調査のときには、4 年生、6 年生に妥当性を検討するために使用した子どもうつ尺度、自尊感情尺度の質問紙を、1, 2 年生に集団で行うことは、難しいと判断したため、その調査のときには、信頼性のみの検討であった。本研究では、個別に調査をすることで、質問紙に書き込むときのミスをなくすることや耳から入ることによって理解をしやすくなることなどを考慮した。前回の調査時に使った心理的適応検査である子どもうつ尺度、自尊感情尺度を小学生版 QOL 尺度とともにインタビュー形式でたずねた。調査者は、事前の打ち合わせによって、調査の内容を理解し、児童の質問に答えるときの対応なども一致させるようにした。その結果、QOL 得点並びに 6 下位尺度得点と子どもうつ尺度との間には負の、自尊感情尺度との間には正のいずれも有意な相関がみられ、心理的適応の程度をみる指標との期待される方向での関連性を明らかにできた。

また、全体得点と各項目得点の相関係数をみると、いずれも有意ではあったが、下位領域の友だち【2】「友だちに好かれていると思った」の項目が.19 と低め ( $p<.05$ ) にでていたので、この項目の言い回しは理解しにくかったとも考えられ、今後の検討課題である。しかし、本調査項目の情動的 Well-being【4】「なにもないのにこわい感じがした」は、前調査時で相関係数の低かった「びくびくしていた」を変更したものである。前回より低学年、高学年ともに相関係数も高くなり、この 2 項目間の相関も確かめられたことから、情動的 Well-being【4】は今回の「なにもないのにこわかった」を以後使用することとする。

### 2. 調査の拡大

将来的には、日本における標準値を出すことが望まれているため、本研究では、調査地域の拡大、私立の小学校も含め学

校の種類も広げた。

東京都では、公立小学校と私立小学校、神奈川県は政令指定都市である横浜市にある公立小学校 2 校、相模原市にある公立小学校 2 校、山北町立の小学校と全県規模の調査とした。しかし、町村部の小学校の快諾がなかなか得られず、調査人数のばらつきが見られた。学校の種類調整や人数のバランスの問題は今後の課題である。

QOL 得点ならびに 6 下位領域得点の構成を見ると、QOL 得点の 2 年生の得点が高くなっていたのは、下位領域の友だちの得点において 2 年生が特に高かったためと考えられる。学年ごとに低下の傾向が見られたのは、前回の調査のときも同様であった。自尊感情、学校生活においては、学年ごとに低くなる傾向がより顕著であった。自尊感情においては、前回のときも年齢が上がるにつれ自尊感情は低下する傾向にあった。その要因については、興味深いものである。しかし、1 つには調査時期の問題もあるので、次回、調査時期を前回や今回とは異なる時期に設定しなければならないと考えている。

治療中の病気があると答えた児童と病気はないと答えた児童の平均の差は下位領域の身体的健康のみであった。治療中の病気があると答えた児童は、喘息やアトピー性皮膚炎などの慢性疾患をかかえるものや、かぜなどを記す児童もおり、本研究では、それらの疾患について分類しなかったため、身体的健康において差がでただけだったと考えられる。

また、登校前に朝食をとるかどうかにについては、前回の調査でも差がみられたが、群の人数が少なかったため統計的に差を言及できなかった。そこで、今回も調査内容に含めた。今回の調査でも、いつも食べている児童と食べていない児童の QOL 得点には差があった。6 下位領域においてもすべて、いつも食べている児童の得点が有意に高く、ときどき食べる児童や食べてこない児童の得点が低く、QOL と朝食の関連性が明らかになった。

病気の有無や朝食の摂取という児童の

現状と児童の QOL の関連性が示されたことは、「小学生版 QOL 尺度」の妥当性につながると考える。

学校種類別に関しては、本調査では人数のばらつきが見られ、統計的には言及できないが、QOL 得点のならびに下位領域の得点にはそれぞれ差もあるが、6年生の QOL 得点が低いことや自尊感情の得点が年齢ごとに低下している傾向は、どの種類の学校にも同様な現象が見られた。これらの結果は、今後その原因を多方面から検討していかなければならない課題と考える。

### 3. 「小学生版 QOL 尺度 ; 親用」に関して

小学生版 QOL 尺度親用の Cronbach の  $\alpha$  係数は QOL 得点が、.87 となり、下位領域でも家族と身体的健康が .58、.63 とやや低いほかは高い値が得られた。また、親から見た子どもの QOL 得点と子ども自身による QOL 得点との間にある程度の相関も得られた。小学生版 QOL 尺度親用の質問紙の信頼性と妥当性の検討は、望ましい結果が得られたと考える。

しかし、一応の相関が見られたもののその相関は低く、子ども自身がつけた QOL 得点より親から見た子どもの QOL の得点の方が高かった。親から見た子どもの QOL 得点においては、学年ごとの差も、自尊感情のみに 2 年生と 5 年生間に有意差がみられただけで、子どもの QOL 得点のように有意な低下はみられなかった。特に、QOL 得点の低い児童の中に、親からみた QOL 得点が高く、その差の大きい児童もいた。それらの児童における親子間の差の要因についてはさらに検討していかなければならないが、見守っていく必要のある児童といえるかもしれない。

### E. 結論

本研究において、1, 2 年生における妥当性の検討がなされ、他の 2 つの心理的適応尺度との関連性が示された。

さらに、「小学生版 QOL 尺度」が子ど

もの日常生活にそった生活全体の健康度や満足度を考慮した適応尺度として広く使えることを示してきた。

また、「小学生版 QOL 尺度 ; 親用」に関しても信頼性と妥当性の検討がされたことで、今後、使える指標となった。

来年度、調査時期や調査地域のバランスや人数の調整などをして、日本での標準化にむけてさらに検討していきたい。

### F. 健康危険情報

なし

### G. 研究発表

#### 1. 学会発表

平成 15 年度 第 45 回日本教育心理学会  
「小学生版 QOL 尺度—日本における Kid-KINDL Questionnaire の検討—」  
柴田玲子 松寄くみ子 根本芳子 飯倉洋治

### H. 知的財産権の登録状況

なし

### 参考文献

- 1) Bullinger, M. KINDL a questionnaire for health-related quality of life assessment in children. Zeitschrift fur Gesundheitspsychologie 1994 ; 1: 64-77.
- 2) Landgraf, J.M., Ravens-Sieberer, U., Bullinger, M. Quality of Life Research in Children: Methods and Instruments. Dialogues in Pediatric Urology 1997 ; 20(11): 5-7.
- 3) Ravens-Sieberer, U., Bullinger, M. Assessing health-related quality of life in chronically ill children with the German KINDL: first psychometric and content analytical results. Quality of Life Research 1998 ; 7 (5): 399-407.

- 4) Ravens-Sieberer, U., Gortler, E., Bullinger, M. Subjective health and health behavior of children and adolescents a survey of Hamburg students within the scope of school medical examination. *Gesundheitswesen* 2000; 62 (3): 148-155.
- 5) 柴田玲子 根本芳子 松崎くみ子 田中大介 川口毅 神田晃 吉村純一 奥山真紀子 飯倉洋治 日本における日本における Kid-KINDL Questionnaire (小学生版 QOL 尺度) の検討 *日本小児科学会雑誌* 2003 ; 107(11) 1514~1520.
- 6) Rosenberg. M. Society and the adolescent self-image. Princeton University press 1965.
- 7) Kovas, M. The children's depression, inventory(CDS). *Psychopharmacological Bulletin* 1985 ; 21 (4) : 995-998





1. あなたの けんこう について きかせてください。 この1しゅうかん.....	ぜんぜんない	ほとんどない	ときどき	たいてい	いつも
①...わたしは びょうきかなと おもった.					
②...わたしは あたまが いたかったり, おなかが いたかった.					
③...わたしは つかれて ぐったり していた.					
④...わたしは げんき いっぱい だった.					

2. あなたは どんな きもちで すごしましたか この1しゅうかん.....	ぜんぜんない	ほとんどない	ときどき	たいてい	いつも
①...わたしは たのしかったし, たくさん わらった.					
②...わたしは たいくつ だった.					
③...わたしは ひとりぼっち のような きがした.					
④...わたしは なにもないのに こわい かんじが した.					

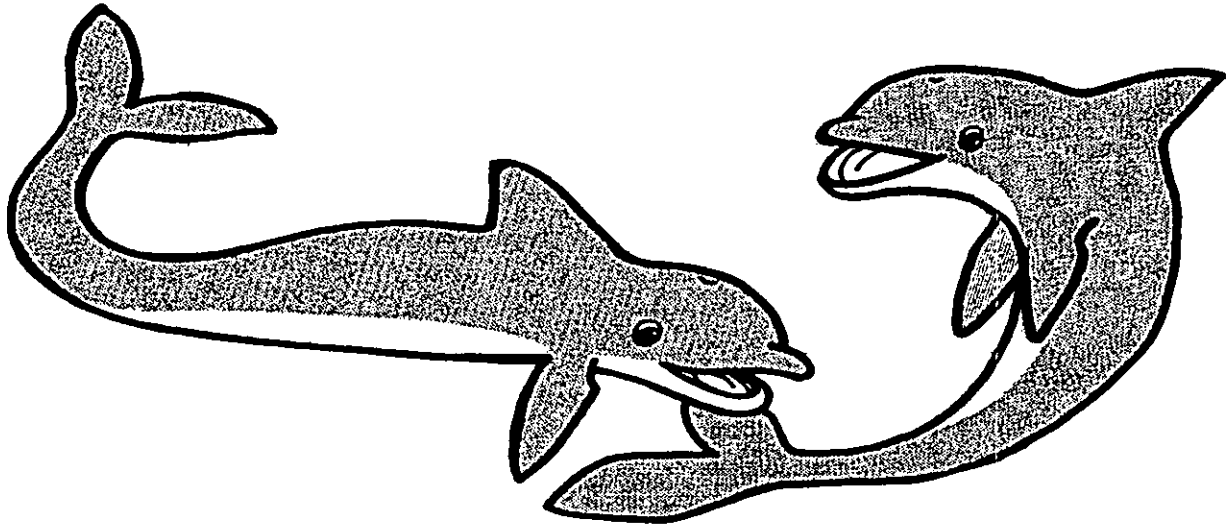
3. あなたは じぶんのことを どのように かんじていましたか。 この1しゅうかん.....	ぜんぜんない	ほとんどない	ときどき	たいてい	いつも
①...わたしは じぶんに じしんが あった.					
②...わたしは いろいろなことができそうなかんじが した.					
③...わたしは じぶんに まんぞく していた.					
④...わたしは いいことを たくさん おもいついた.					

4. あなたと あなたの かぞくについて きかせてください。 この1しゅうかん.....	ぜんぜんない	ほとんどない	ときどき	たいてい	いつも
①...わたしは おとうさんや おかあさんと なかよく していた。					
②...わたしは いえで きもちよく すごしていた。					
③...わたしは いえで けんか していた。					
④...わたしは おとうさんや おかあさんに したいことを させても らえなかった。					

5. あなたと ともだちとの ようすを きかせてください。 この1しゅうかん.....	ぜんぜんない	ほとんどない	ときどき	たいてい	いつも
①...わたしは ともだちと いっしょに あそんだ。					
②...ほかの こどもたちに じぶんは すかれているとおもった。					
③...わたしは なかよしのともだちと たのしく すごした。					
④...わたしは ほかのこどもたちと じぶんは ちがっているような きがした。					

6. 学校での ようすを きかせてください。 この1しゅうかん.....	ぜんぜんない	ほとんどない	ときどき	たいてい	いつも
①...がっこうでの べんきょうは かんたんだった (よくわかった)。					
②...わたしは じゅぎょうが たのしかった。					
③...つぎのしゅうが くるのを たのしみにしていた。					
④...わたしは テストのてんすうや せいせきが きになった。					

# こどもアンケート



記入した日： 平成\_\_\_\_\_年\_\_\_\_\_月\_\_\_\_\_日

\_\_\_\_\_ねん \_\_\_\_\_くみ なまえ\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_さい \_\_\_\_\_ねん がつうまれ おとこ／おんな

きょうだいは じぶんをいれなくて なんにいますか。

( いない / ひとり / ふたり / 3にん / 4にん / 5にんいじょう )  
 いま、びょういで ちりょうちゅうのびょうきが ありますか。( ある / ない )  
 あるひと ( ぜんそく / アトピーせいひふえん / かぜ / そのた\_\_\_\_\_ )

これから、この1しゅうかんぐらいのことを おもいだして こたえてください。

これには、ただしいこたえや まちがったこたえは ありません。

おともだちや おうちのひとに そうだんしないで こたえてください。

あなたが じぶんに 1ばんあてはまると おもうところに ○を かいてください。

	ぜんぜんない	ほとんどない	ときどき	たいてい	いつも
では れんしゅうしてみましよう					
この1しゅうかん					
…わたしは アイスクリームをたべたいなあと おもっていた				○	

1. あなたのけんこうについてさかせてください この1しゅうかん……	ぜんぜんない	ときどき	ほとんどいつも
①…わたしは びょうきかなと おもった.			
②…わたしは あたまが いたいことや、おなかが いたいことがあった.			
③…わたしは つかれて ぐったり していた.			
④…わたしは げんき いっぱい だった.			

2. あなたは どんな きもちで すごしましたか この1しゅうかん……	ぜんぜんない	ときどき	ほとんどいつも
①…わたしは たのしかったし、 たくさん わらった.			
②…わたしは なんにも やるきが しなかった.			
③…わたしは ひとりぼっち のような きがした.			
④…わたしは なにもないのに こわい かんじが した.			
⑤…わたしは たいくつ だった.			
⑥…わたしは びくびく していた.			